

横須賀文化の香る まちづくり基本計画

東 海 市

目 次

1 はじめに	1
2 上位計画	1
(1) 第6次東海市総合計画（平成26年3月）	1
(2) 東海市都市計画マスタープラン（平成26年3月）	2
(3) とうかい教育夢プランⅡ（平成26年3月）	3
3 計画区域	4
4 基本構想から基本計画へ	5
5 重点項目	7
6 個別計画	8
(1) 無電柱化による道路美装化計画	8
(2) 文化センターの現状と課題	10
(3) 沿道建物景観整備計画	12
(4) 協働によるにぎわいづくり計画	17
7 個別計画対象範囲	19
資料編	21
(1) 横須賀文化の香るまちづくり基本計画策定プロジェクトチーム会議	21
(2) 横須賀文化の香るまちづくり協議会委員会	22
(3) 横須賀文化の香るまちづくり基本計画フロー図	22

1 はじめに

横須賀地区には、山車をはじめとするまつり文化や愛宕神社、横須賀御殿跡など、歴史文化資源が多数分布し、町方の町割や風情ある建物も点在しています。

第6次東海市総合計画のなかで、めざすまちの姿として「地域の歴史や伝統文化が大切に守られ継承されている」があり、伝統文化・文化財の継承をとおして、世代間の交流を図り、これらを生かした愛着が持てるまちづくりが必要です。

そのため、美しい景観形成や防災性の向上、歩行者の安全性の確保を図りながら、5つの山車蔵と歴史的建造物をめぐる散策路、緑道や公園などの公共施設を有機的に結びつけ、地域の魅力を再構築し、優れた住環境・景観を持ったまちづくりを行うため、平成25年度に「横須賀文化の香るまちづくり基本構想」（以下「基本構想」とする）を策定しました。

そして、平成26年度に発足した「横須賀文化の香るまちづくり協議会」（以下「まちづくり協議会」とする）と意見交換を行いながら、「基本構想」の実現化に向けて、「横須賀文化の香るまちづくり基本計画」を策定しました。

2 上位計画

第6次東海市総合計画、東海市都市計画マスタープラン、とうかい教育夢プランⅡから本計画の関係部分を掲載します。

（1）第6次東海市総合計画（平成26年3月）

将来都市像 ひと 夢 つなぐ 安心未来都市

五つの理念 安心・快適・いきいき・ふれあい・活力

計画期間 平成26年度～平成35年度



（出典：第6次東海市総合計画）

めざすまちの姿 地域の歴史や伝統文化が大切に守られ継承されている

- ・地域の歴史や伝統文化が研究され、その成果が公表されており、まちづくりや地域づくりに積極的に生かされています。
- ・地域の歴史や伝統文化が教えられており、子どもが地域の歴史や伝統文化に関心を持っています。
- ・地域の行事や祭りが大切に継承され、どの世代の住民も積極的に参加しています。
- ・地域の歴史や伝統文化に誇りや愛着を持つ市民が増えています。

(2) 東海市都市計画マスタープラン（平成 26 年 3 月）

都市づくりの理念 ひと 夢 つなぐ 安心未来都市づくり

都市づくりの目標 人と人、人とまちの交流を深める文化の香る都市づくり

計画期間 平成 23 年度～平成 35 年度

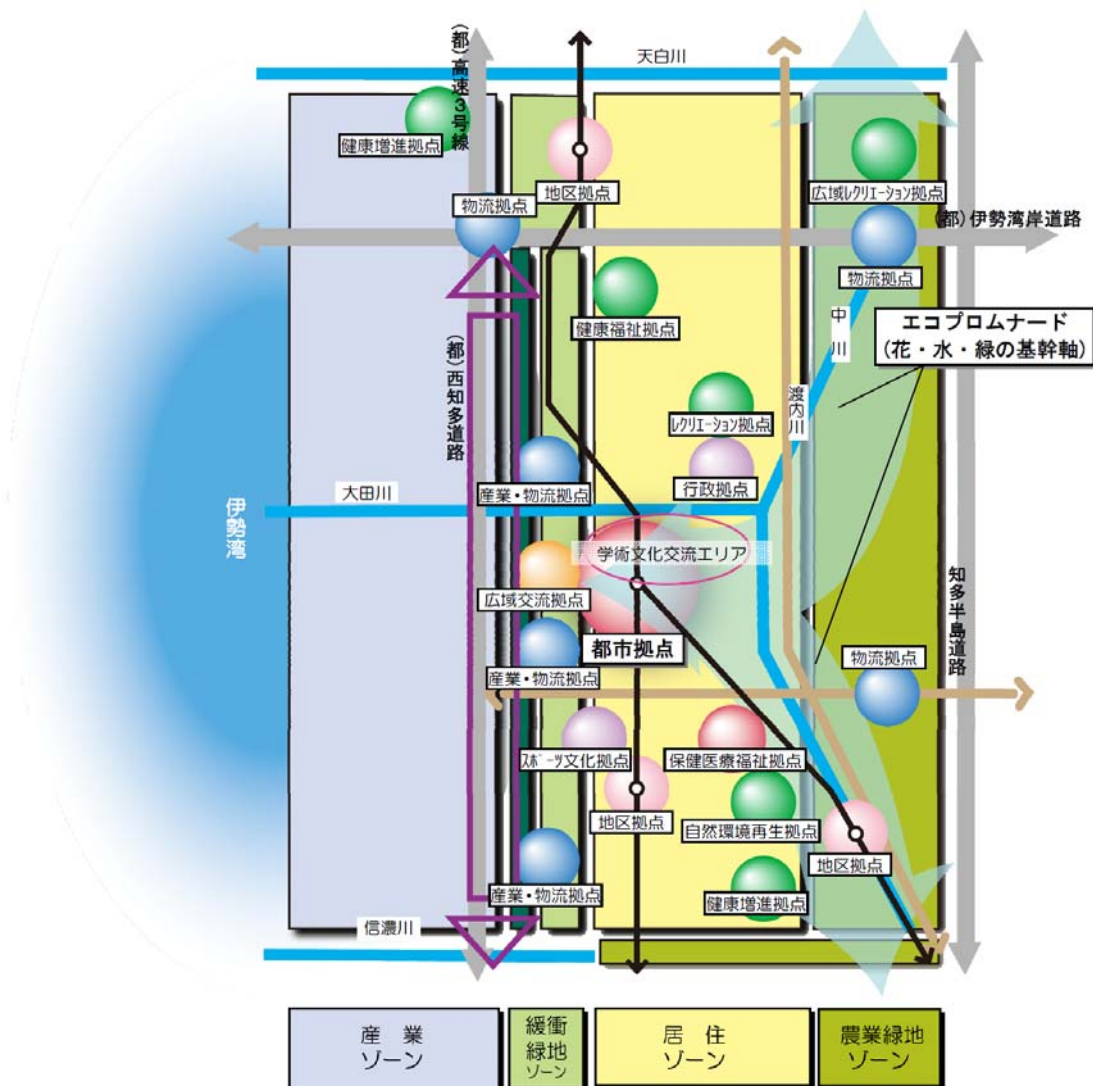
地域別構想 No.9 横須賀地域

将来目標

地区拠点を中心に便利で快適に暮らせるとともに 歴史的な趣や雰囲気を感じられるまち
ー 尾張横須賀駅周辺での地区拠点の形成と歴史資源を生かしたまちづくり ー

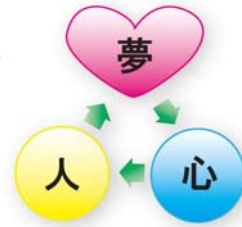
地域環境・景観

尾張横須賀駅周辺においては、花のまちづくり運動の推進や街並みの緑化、屋外広告物の規制等により、地区拠点にふさわしい美しい都市景観の形成を図るとともに、西側の既成市街地では、山車蔵をはじめとした地域固有の歴史的資源と調和した市街地景観の形成を図ります。



本市の将来像（概念図）【目標年次：平成 35 年度】（出典：東海市都市計画マスタープラン）

(3) とうかい教育夢プランⅡ（平成 26 年 3 月）



■ 夢づくりの構想（基本構想）

テーマ 「心そだて 人そだて 夢そだて」

めざす将来像

（出典：とうかい教育夢プランⅡ）

めざす子どもの未来像 「夢をもち 心豊かにたくましく 生きぬいていける子」

めざす市民の未来像 「健康で生きがいをもち 学びを力にし 実践する人」

基本理念

理念 1：人と人とのつながりを大切にし、豊かな心をつくる

理念 2：健康な心と体を養い、たくましく生きぬく力を育てる

理念 3：楽しく学び、学んだことを実践する人を育てる

理念 4：生きがいと夢をもち、個性輝く人を育てる

計画期間

平成 26 年度～平成 35 年度

■ 夢づくりの計画（推進計画）

夢の姿 5 市民が地域を愛し、伝統や歴史が次世代につながっている

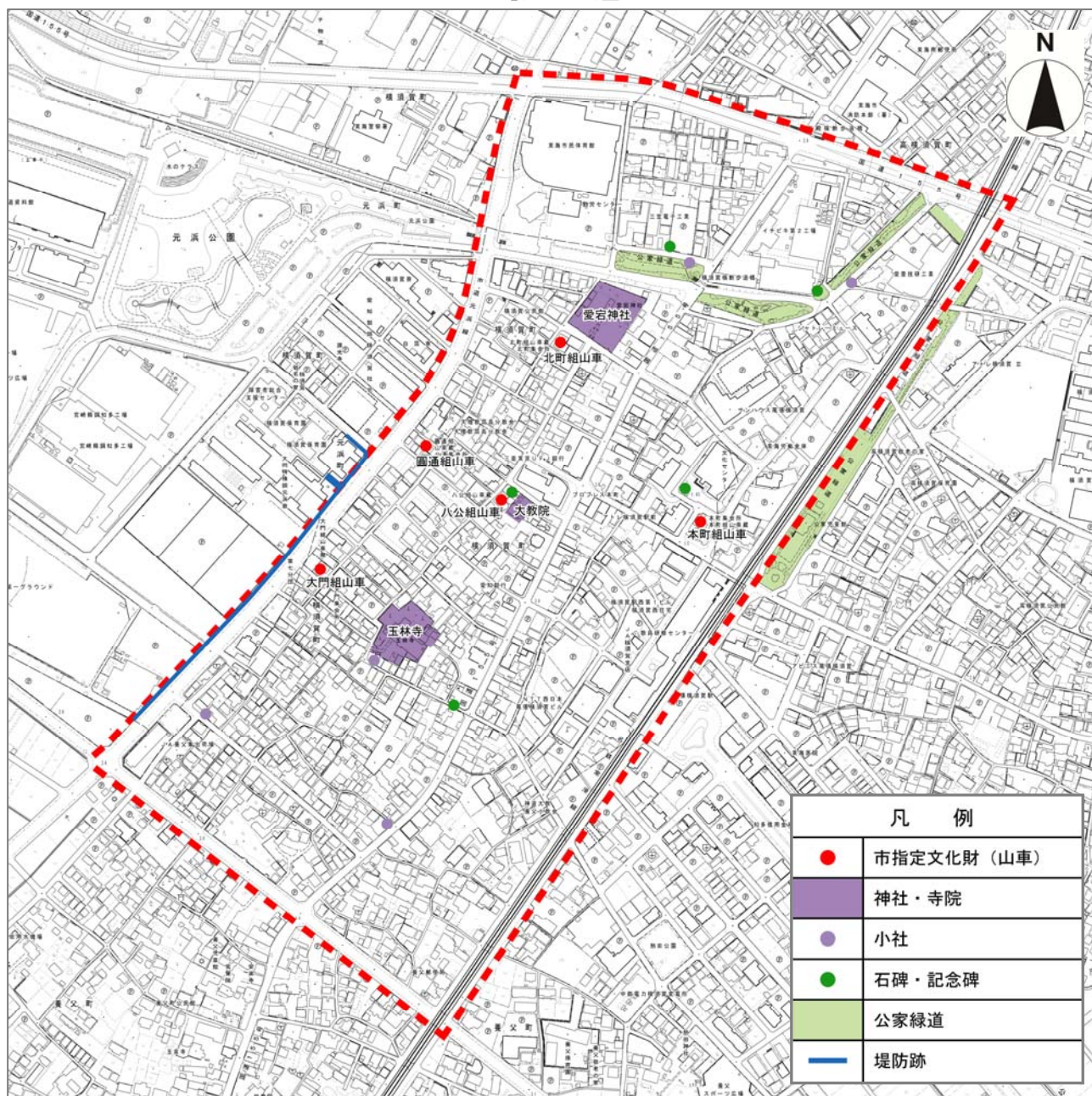
夢の姿を実現するための方向性

- ① 市民が伝統や歴史にふれられる
- ② 偉人の教えを活かし、市内外に発信している

3 計画区域

基本構想と同様に、江戸時代からの町割が残り、多くの歴史文化資源が点在する横須賀町を中心とした下図に示す範囲を計画区域とします。

■計画区域図



4 基本構想 から 基本計画へ

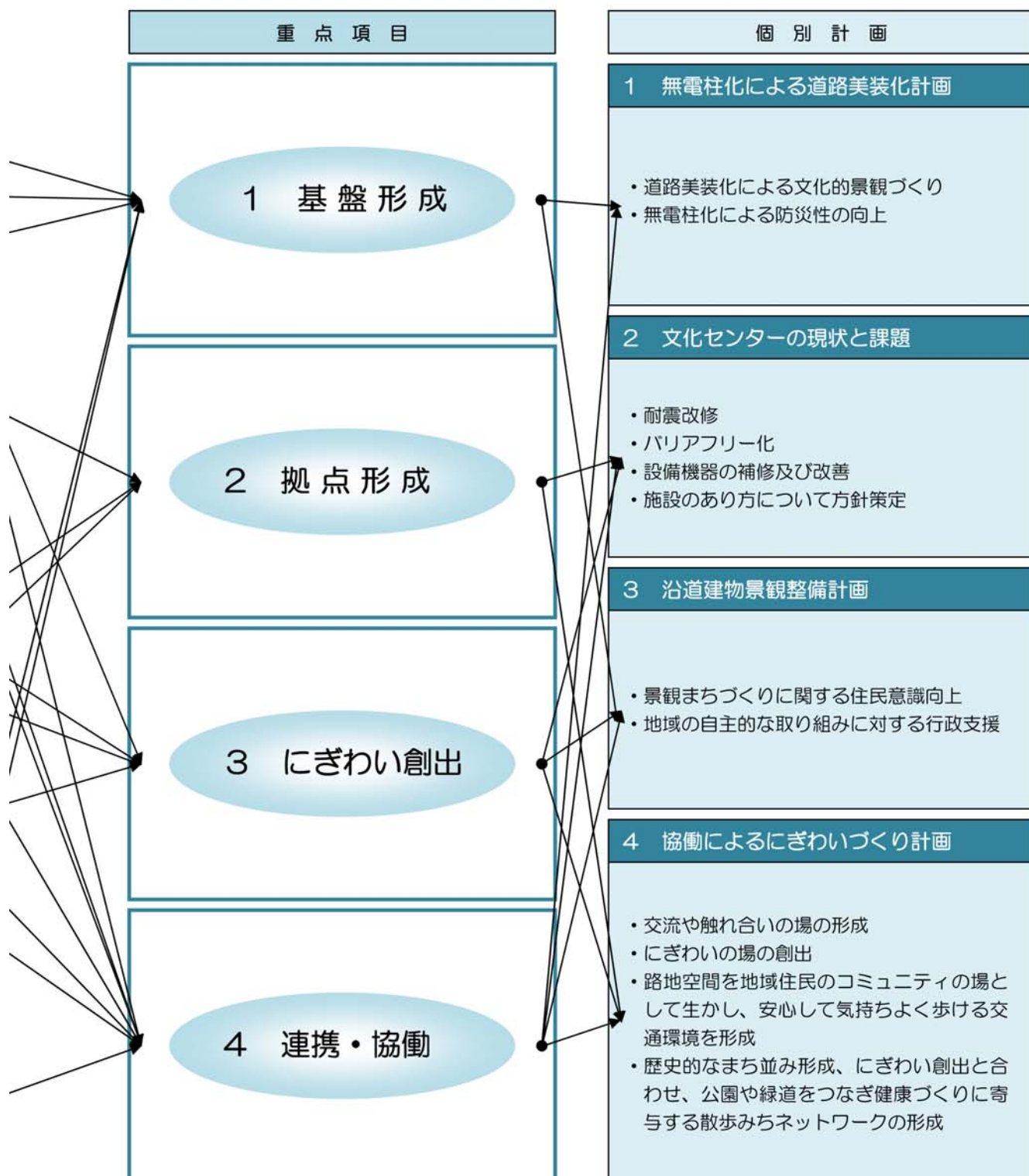
まちづくり
の理念

江戸の古

	現 状	課 題	基本方向と取り組み例
歴 史	愛宕神社の例祭を起源とする「尾張横須賀まつり」	横須賀の歴史や文化を尊重し、これを生かしたまちづくり	1 山車まつりが映える景観まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 伝統的な建物の再生と修復による町方のまち並みの誘導 歴史的な雰囲気のある“文化と山車のみち”空間づくり かつてのにぎやかな町家文化を継承する常滑街道沿いの景観づくり
	市指定文化財にもなっている5つの山車と山車蔵、愛宕神社、玉林寺などの寺社		
	昔ながらの伝統的な建物を生かした商店や、まちなみとの調和への配慮がなされたまち	伝統的な建造物や町家の再生やこれらと調和したまち並みの誘導	2 まちの新たな拠点づくり <ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化の中心となる拠点機能の充実 地域住民の自主的・継続的な生涯学習活動、コミュニティ活動、まちづくり活動の支援 市民との連携による運営体制の強化
	木造の伝統的な「黒鎧下見」や「格子」の建築物が点在		
	新しい住宅建設の増加とともに、失われつつある古いまち並み		
にぎわい	醸造業や織布業などの伝統産業の文化	まちのにぎわいを取り戻すための集いや出会いの創出	3 地域資源を生かしたにぎわいづくり <ul style="list-style-type: none"> 地域住民や外部からの来訪者が出会い、集うことのできる交流やふれあいの場の形成 地域の資産を活用したにぎわいの場の創出
	スポーツ・レクリエーション、文化の拠点が形成		
	進む空洞化による空き地、空き家の増加や、商店街の連続性がなくなり目立つ空き店舗		
コミュニティ	まちを愛する人々の心や、連続と続く地域のコミュニティ	住民同士のふれあいや日常的な近所づきあいの活性化	4 花と緑の健康まちづくり <ul style="list-style-type: none"> 花や生け垣などに囲まれた昔ながらの路地空間の形成 地区周辺の元浜公園、公家緑道などをつなぎ、健康づくりに寄与する散歩みちの形成
	駅前広場、横須賀駅西通線などの基盤整備が進行		
	通勤駅としての利便性の向上、マンションの立地が活発化		
安全・防災	狭小な路地と暮らし	安全で安心な、現代の生活にも合った快適な都市の基盤づくり	5 安全・快適なまちづくり <ul style="list-style-type: none"> 自動車や歩行者・自転車と共存できる安心して歩ける道路・交通環境の形成 密集した木造住宅地の防災性を高めるためのコミュニティによる地域防災力の強化
	古い木造住宅の密集した地区の存在	密集住宅地の防災性の向上	

から引き継がれる“町方文化”を市民とともに守り、育み、未来に発信するまち

～江戸時代の町割を礎に、山車まつりが息づき、人が輝くまちづくり～



5 重点項目

基本構想では、現状と課題から5つの基本方向を定め、その取り組み例をまとめました。

これら5つの基本方向と取り組み例が持つ共通する要素を、基本計画では4つの「重点項目」として整理しました。

（１）基盤形成

横須賀の歴史や文化を尊重するまちづくりを進めるためには、まず理念実現に必要なまち並み整備を行うことが重要です。具体的には、伝統ある「尾張横須賀まつり」の山車が映える空間づくりに取り組んでいくことが必要です。同時に、狭小な路地や密集する木造住宅地区のなかで安心・安全で、防災性を高めた環境の中、暮らせるまちづくりが必要となります。このため、これらに共通する重点項目を「基盤形成」としました。

（２）拠点形成

まちのにぎわいを取り戻すためには、横須賀の歴史や文化の情報発信する場や、地域住民の自主的・継続的な活動を支援する場、地域資源を生かし、地域外からの来訪者ともふれあえる場などが必要となります。このため、これらに共通する重点項目を「拠点形成」としました。

（３）にぎわい創出

増加する空き地や空き店舗が目立つまち並みを活性化するためには、「まつり」だけでなく、年間を通じた地域住民同士のふれあいやコミュニティの活発な活動、地域住民と外部からの来訪者との交流の促進が必要となります。このため、これらに共通する重点項目を「にぎわい創出」としました。

（４）連携・協働

5つの基本方向をもとに、横須賀文化の香るまちづくりを実現するためには、自助・共助・公助の相互連携を基に、地域住民、団体、行政など様々な主体がまちづくりに関わり、協力して進めていくことが必要となります。このため、これらに共通する重点項目を「連携・協働」としました。

6 個別計画

(1) 無電柱化による道路美装化計画 (重点項目：1 基盤形成、4 連携・協働)

①現状・課題

- ・今後無電柱化をすることを検討している路線の愛宕神社参道は、約 3～7mの狭小道路となっています。
- ・山車の走行が可能な舗装材が必要です。
- ・どんてんへの配慮がされた舗装材選定が必要です。
- ・狭い道路で歩行者や自転車、自動車が混在しており、交通安全上の配慮が必要です。
- ・狭い道路に電柱が設置されており、無電柱化による防災上の配慮が必要です。

②コンセプト 『山車が映える安全なみち』

- ・愛宕神社参道、尾張横須賀まつりの山車のルートを「文化と山車のみち」として位置づけ、落ち着いた飽きのこないデザインとし、歩行者が安心・安全に歩けるみちを目指します。

③基本方針

- ・「文化と山車のみち」は重点的に伝統的景観づくりを進める道とし、無電柱化や景観に配慮した道路美装など、歴史的な環境や沿道景観と調和した道路景観の形成を図ります。
- ・「文化と山車のみち」については、無電柱化による防災性の向上を図るとともに、コミュニティ道路化などにより自動車の走行速度を抑制し、歩行者や自転車が安心して通行できる道路空間を目指します。
- ・当面は愛宕神社参道と（都）横須賀駅西道路の一部を無電柱化による道路美装化を図り、玉林寺までの参道は順次美装化等の検討を行います。

④その他の施設

- ・街路照明や植栽等についても歴史的な景観になじむ和風のものとし、色彩やデザインに配慮します。

■無電柱化による道路美装化路線の区間



■無電柱化による道路美装化路線イメージ

◆現況



◆無電柱化+脱色 AS 舗装のイメージ



道路標識の修景

電柱（カーボール）の使用

室外機の修景

（２）文化センターの現状と課題 （重点項目：２ 拠点形成、３ にぎわい創出、 ４ 連携・協働）

①現状・課題

- ・文化センターは、昭和５５年に竣工し、３５年が経過しています。経年劣化による施設の老朽化に加えて、平成１５年に実施された耐震診断においては、 I_s 値が基準を下回り、不適格の診断を受けています。
- ・バリアフリー化及び耐震改修などの法改正への対応が必要です。ホール及びホワイエの非構造部材吊り天井部分も耐震改修が必要です。
- ・設備機器の経年劣化に対して早期の補修及び改善が必要であるとともに、部品調達が困難な空調設備、非常用発電機等の更新が必要です。

<建物概要>

所在地：東海市横須賀町狐塚１１番地

敷地面積及び用途等：４,１３７.４５㎡

（商業地域、防火地域、８０％（建ぺい率）、４００％（容積率））

北側敷地：近隣商業地域（日影規制有、５h、３h）

構造：鉄筋コンクリート一部鉄骨（屋根）、地下１階地上３階建 PH１階、耐火建築物

面積：建物面積 １,７４０.３６㎡、延床面積 ３,６８５.３９㎡（１階 １,６９４.９１㎡、２階 ９２７.１５㎡、
３階 ７１９.０４㎡、B１階 ２５７.４９㎡、PH 階 ８６.８０㎡）

竣工：昭和５５年



バリアフリー対応が望まれるトイレ



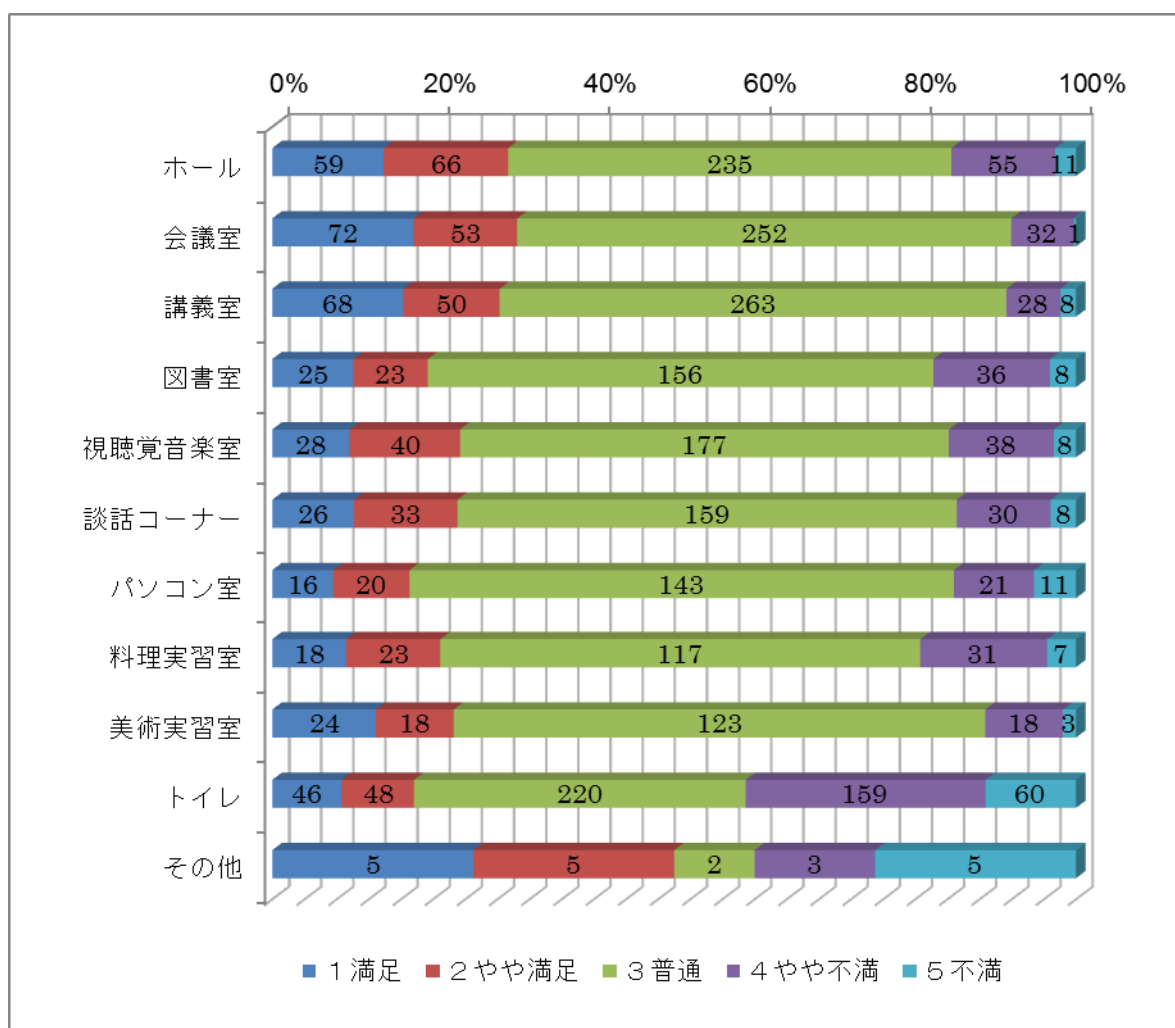
耐用年数を超過している空調設備

②利用者ニーズ

- ・利用者アンケート（平成２７年１０月実施）の結果は次のとおりです。
- ・調理実習室を除く全ての施設に対する回答が、「満足」「やや満足」「普通」で８割を超えています。満足度の高い施設は会議室、講義室、美術実習室の順で高く、主な理由は、部屋が使いやすい、利用しやすいなどです。

- 一方、不満度の高い施設として、トイレに対する回答が、「不満」「やや不満」で4割を占めています。主な理由は、和式トイレが多く、洋式トイレも多目的トイレ以外はシャワー機能等が無いからです。
- 次の3つの機能に対する要望が全体の7割弱を占めています。
「飲食機能」 …付近に飲食店が少ないことや、以前は喫茶室があったこともあり、施設利用時に昼食等で利用できる場所が欲しい。
「ギャラリー機能」…絵画や陶芸などのサークルが発表できる場の充実を望む。
「地域の案内機能」…文化センターの周辺に何があるのか分からないため。

＜参考＞文化センター利用者の満足度（平成27年10月実施）



③今後の方向性

- 当面、現在の施設を維持し、必要に応じて修繕等を行います。
- 平成27年10月に太田川駅前に芸術劇場が開館、及び尾張横須賀駅前の教育関連施設整備決定による影響を踏まえ、早期に今後の施設のあり方についての方針を定めます。

(3) 沿道建物景観整備計画 （重点項目：1 基盤形成、3 にぎわい創出、4 連携・協働）

①現状・課題

- ・伝統的な建物と現代的な建物が混在するため、強制力がある景観形成のルール化は難しい状況です。
- ・古い木造住宅が密集する地区の大部分は準防火地域に指定されているため、延焼のおそれのある部分の外壁や軒裏には防火上の配慮が必要です。



②コンセプト 『山車まつりが映える景観まちづくり』

- ・当地区では歴史的な町割や趣きのある建物が残されているだけではなく、山車まつりが地域にとっての大きな誇りであり、コミュニティの柱となっています。景観まちづくりを進めることによって、より一層地域の歴史や、地域自体に対する愛着心や誇りを醸成します。

③基本方針

- ・景観まちづくりに関する情報提供や学習する機会をもうけ、地域住民の意識向上を図ります。
- ・地域の自主的な取り組みに対して行政として必要な支援を行います。

④参考

- ・景観まちづくりの対象範囲（案）を、「愛宕神社参道ゾーン」、「町方まち並み誘導ゾーン」、「駅前通りゾーン」に分類して検討することが適切と考えます。

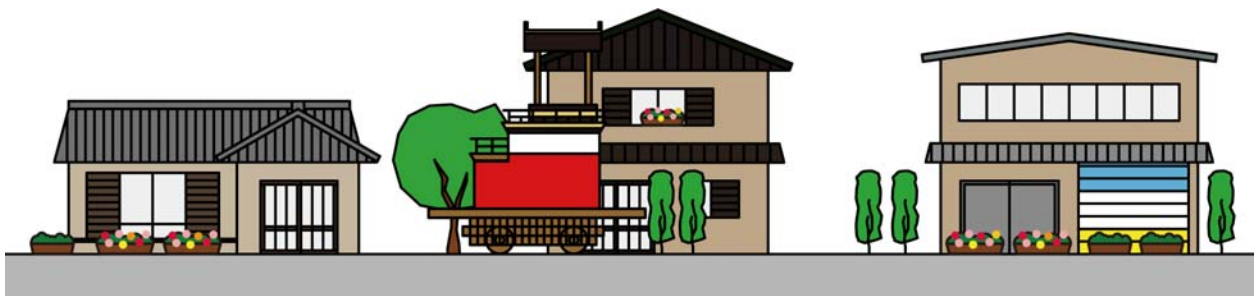
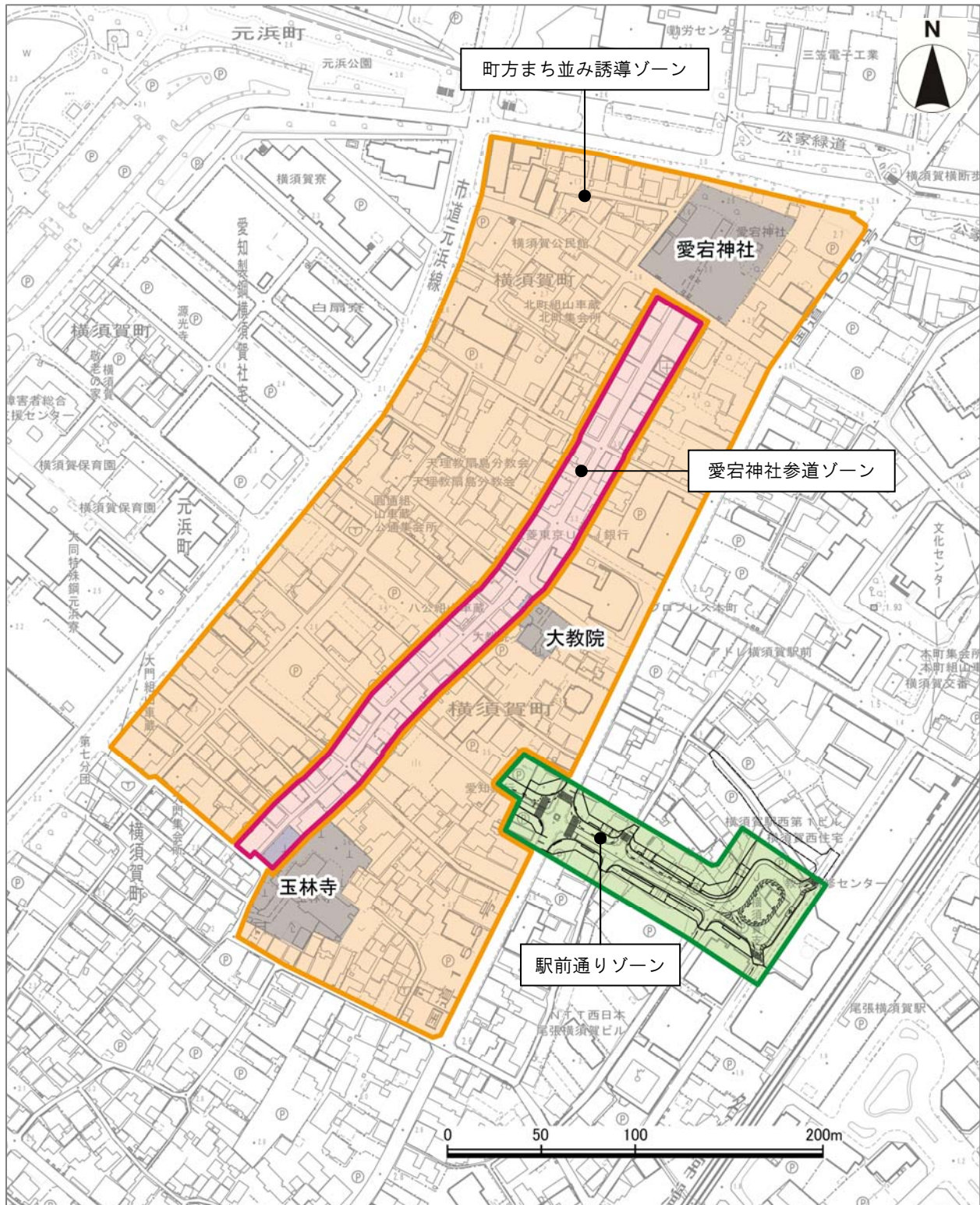
■防火地域・準防火地域について

国道 155 号線沿い（国道から西 20mまで）は防火地域で、ここから愛宕神社参道まで準防火地域（一部参道より西を含み準防火地域）であり、これより西は建築基準法第 22 条地域となります。防火地域内では延床面積 100 m²を超える建物は耐火建築物としなければならぬので、防火地域内には原則木造建物を建てることはできません。

※準防火地域、建築基準法第 22 条地域内における木材の扱い

準防火地域、建築基準法第 22 条地域内で延焼のおそれのある部分の外壁に木を用いる場合は、下地などに防火上の配慮が必要になります。準防火地域内では、延焼のおそれのある部分に木の建具は原則使用できず、また、軒天に木を現し（^{あらわ}構造材が見える状態で仕上げる手法）とする場合は外壁との取り合い部に防火上の配慮が必要になります。

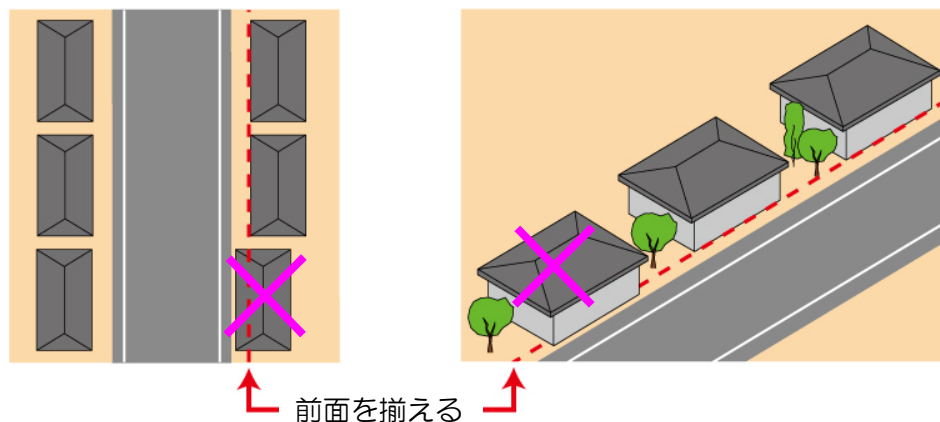
景観まちづくりの対象範囲（案）



・景観まちづくりの主なポイントは次のとおりです。

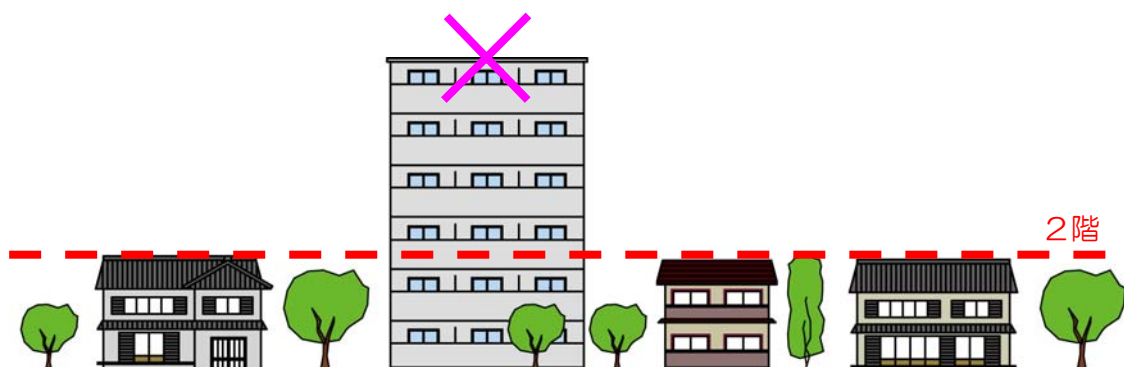
■建築物の位置は、前面を揃えます。

イメージ図



■愛宕神社参道ゾーンでは、建築物の高さを2階にして揃えます。

イメージ図



■建築物の外壁は、色調・素材に統一感を持たせます。



鎧囲い（押縁下見板）



木板



鎧囲い意匠の金属板



木板模様サイディング

TOPICS

■『鎧囲い』とは？

下見板（家の外壁などに張る横張りの板）を押縁（板など押さえる細い木）で押さえてとめたもので、長い板状の外装材を板の端が下の板の外側になるよう、鎧のように少しずつ重ねて張っていきます。

■『サイディング』とは？

板状外壁材の総称で、施工の合理化に伴い採用されることが多くなっています。セメントなどを主原料にしたもののほか、断熱材やハードボードなどを芯材に金属板で被覆したものなど、多くの種類があります。

■屋外設備機器は、通りから見えない位置に設置するか、まち並みに調和する素材で囲い、修景します。



屋根上の空調室外機を
隠した木格子

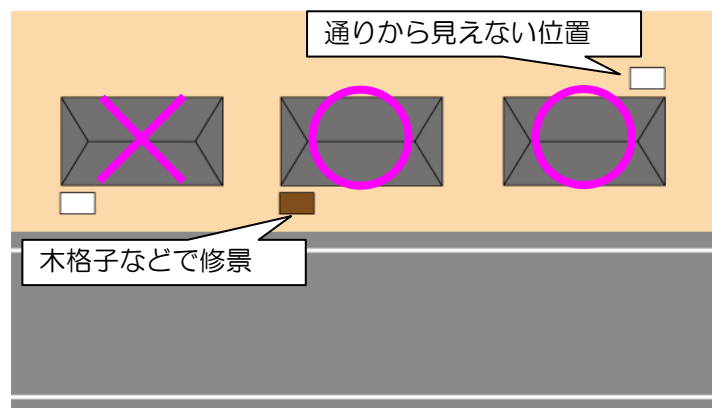


通り脇の空調室外機を
隠した木格子



電気メーターを
隠した木格子

イメージ図



■屋外広告物は、まち並みに調和する色彩・素材を使用し、屋上広告や突き出し看板、ネオンサインは避けます。



まち並みに調和した自家用看板



屋上看板



突き出し看板



ネオンサイン



落ち着いた色彩
の看板例

■自動販売機等は、まち並みに調和する色彩とするか、自動販売機等をまち並みに調和する素材で覆うなどして修景します。



茶色系の自動販売機と
駐車場支払機



建物の中に組み込んだ
木目の自動販売機

口先進地事例



三重県伊賀市



愛知県犬山市

(4) 協働によるにぎわいづくり計画 （重点項目：2 拠点形成、3 にぎわい創出、 4 連携・協働）

①現状・課題

- ・地域住民や来訪者が気軽に集うことができる場が見られません。
- ・地域の空洞化が進み、空き地や空き家も見られます。
- ・明治時代創業の老舗店舗が現在も引き継がれています。

②コンセプト 『地域資源を生かしたにぎわいづくり』

- ・地域の歴史資源や尾張横須賀まつり、古くから変わらない町割などを生かしたにぎわいづくりを市民との協働で目指します。

③基本方針

方針1 「横須賀の歴史」を生かす

町方や町家の立ち並ぶ歴史のまちの探訪や情報発信を通じ、地域住民や外部からの来訪者が出会い、集うことのできる交流や触れ合いの場の形成を図ります。

実施イメージ

【情報発信】

- ・尾張横須賀のまちの歴史の情報発信（市民・来訪者） ・まちづくり活動の情報発信（市民）
- ・地域を良く知るためのまちづくり勉強会やまち歩きの開催（市民）
- ・町の歴史やいわれ等をよく知る人へのインタビューと情報化
- ・町の歴史散策マップの作成（大人向け・子ども向け）
- ・まちづくり協議会活動をタウン誌や地域情報チャンネルへの掲載等を依頼する

【尾張横須賀まつりの啓発】

- ・山車蔵開放（定期的に既存の山車蔵を開けて山車を披露）
- ・祭り歳時記の発行 ・尾張横須賀まつりのアーカイブ作成のための情報提供



方針2 「空き家・空き店舗」を生かす

空き家、空き店舗の再生と活用により、地域住民や NPO などが主体となって展開する高齢者や子育て世代のための交流の場や、コミュニティカフェ、地域の農産物の直販店などのにぎわいの場を創出します。



実施イメージ

【空地や空き家等の活用】

- ・古い民家等の拠点化や空き地等の活用
- ・海苔の競り場（地区外）等の活用

【イベント】

- ・年間を通じて奇数月にイベントを開催する
- ・駅前広場でのコンサート開催
- ・連続性のある情報提供（イベント開催情報等）
- ・フリーマーケットの開催
- ・駅前にイベント情報がわかる案内サインを設置
- ・ラン、三八市（農産物直売）の開始

方針3 「路地空間」を生かす

昔ながらの路地空間を地域住民のコミュニティの場として生かしつつ、沿道敷地を花や生け垣で彩ることで、安心して気持ちよく歩ける交通環境の形成を図ります。



実施イメージ

【まちの彩りづくり】

- ・四季の風物誌を飾る
- ・四季の草花を軒先に飾る
- ・散策して楽しいまちづくり

方針4 「公共施設と歴史的まち並みの組み合わせ」を生かす

町方や国道 155 号沿いの歴史的なまち並み形成やにぎわいの創出と合わせ、地区周辺の元浜公園、公家緑道などをつなぎ健康づくりに寄与する散歩みちネットワークの形成を図ります。



実施イメージ

【まちの資源のネットワーク】

- ・駅を中心とした案内板設置
- ・資源、イベントのネットワーク化
- ・通り名プレートの作成と設置
- ・文化センターをまち歩きスタート地点にする

【夜間景観の演出】

- ・まちを行灯で照らす
- ・山車蔵ライトアップ

④実施体制

- ・地域やまちづくり団体、企業等と行政で役割分担し、協働で実践します。



地域住民とのワークショップ



横須賀小学校3年生とのまち歩き

7 個別計画対象範囲





資料編

(1) 横須賀文化の香るまちづくり基本計画策定プロジェクトチーム会議

◆開催経緯

回 数	開 催 日 時	協 議 内 容 等
第1回	平成27年8月18日(水) 午後3時～5時 (出席者11名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： プロジェクト設置要領について 基本計画策定にかかる協議について 今後のスケジュールについて ●施設見学： 文化センターの施設内見学及び意見収集
第2回	平成27年10月22日(木) 午前9時～11時30分 (出席者12名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： 電線類地中化による道路美装化計画案 文化センターリニューアル計画案 沿道建物景観整備方策の検討
第3回	平成27年11月18日(水) 午前10時～12時15分 (出席者11名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： 電線類地中化による道路美装化計画の検討 文化センターリニューアル計画案の検討 沿道建物景観整備方策の検討 地元合意形成資料の検討
第4回	平成27年12月11日(金) 午前9時30分～正午 (出席者12名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： 電線類地中化による道路美装化計画の検討 文化センターリニューアル計画案の検討 沿道建物景観整備方策の検討 地域資源を活かしたにぎわいづくり
第5回	平成28年1月29日(金) 午前10時～正午 (出席者11名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： 計画策定内容の変更について ●意見交換： まちづくり協議会委員との意見交換
第6回	平成28年3月18日(金) 午後1時30分～3時30分 (出席者12名)	<ul style="list-style-type: none"> ●協議内容： 計画策定内容の変更について

◆横須賀文化の香るまちづくり基本計画策定プロジェクトチーム名簿

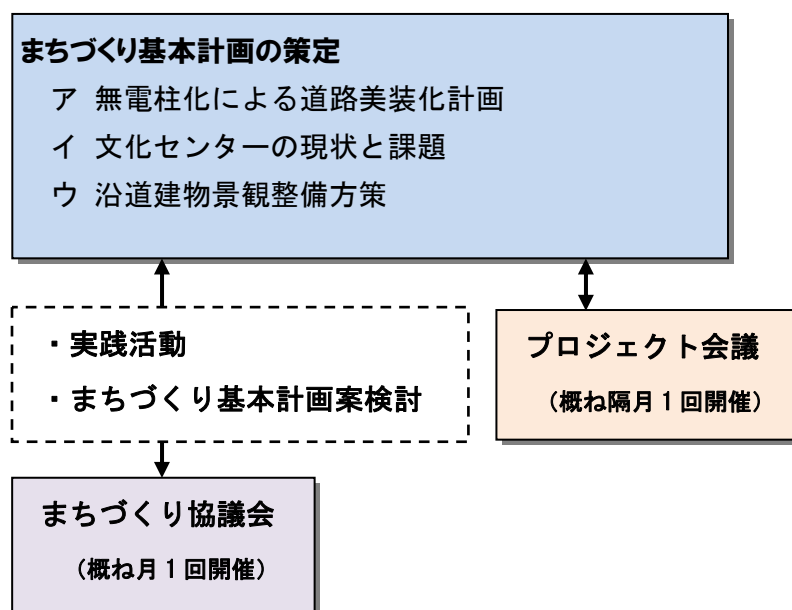
番 号	役 職	担 当 課 等	職 名	氏 名
1	リーダー	社会教育課	課 長	久野 隆
2	サブリーダー	商工労政課	課 長	鈴木 俊毅
3	メンバー	市民協働課	主 事	石金 昭博
4	メンバー	企画政策課	主 事	鯉江 有希
5	メンバー	都市整備課	統括主任	船尾 秀一
6	メンバー	建築住宅課	統括主任	内田 昌俊
7	メンバー	土 木 課	統括主任	西野 貫喜
8	メンバー及び事務局	社会教育課 (文化センター)	統括主幹 主 幹 主 任	近藤 直樹 武田 優璽 小野 秀樹

(2) 横須賀文化の香るまちづくり協議会委員会

◆開催経緯（基本計画策定にかかる開催のみ記載）

開催日時	協議内容等
平成 27 年 8 月 28 日（金） 午後 7 時～ 9 時 （出席者：27 名）	●協議内容： 【にぎわい部会】空地や空家について 【拠点部会】文化センターリニューアルについて 【景観部会】基本計画について
平成 27 年 10 月 22 日（木） 午後 7 時～ 9 時 （出席者：27 名）	●協議内容： 【にぎわい部会】にぎわいづくり計画について 【拠点部会】文化センターリニューアル計画について 【景観部会】道路美装化計画・沿道建物景観計画について
平成 27 年 11 月 27 日（金） 午後 7 時～ 9 時 （出席者：25 名）	●協議内容： 【にぎわい部会】にぎわいづくり計画について 【拠点部会】文化センターリニューアル計画について 【景観部会】道路美装化計画・沿道建物景観計画について
平成 27 年 12 月 18 日（金） 午後 7 時～ 9 時 （出席者：22 名）	●協議内容： 【にぎわい部会】にぎわいづくり計画について 【拠点部会】文化センターの今後のあり方について 【景観部会】道路美装化計画・沿道建物景観計画について
平成 28 年 2 月 26 日（金） 午後 7 時～ 9 時 （出席者：20 名）	●協議内容： まちづくり基本計画の策定状況とプロジェクトメンバーとの意見交換

(3) 横須賀文化の香るまちづくり基本計画策定フロー図



横須賀文化の香るまちづくり基本計画

平成 28 年 3 月発行

発行者：東海市・東海市教育委員会

編集：東海市教育委員会社会教育課（文化センター）

〒477-0036 愛知県東海市横須賀町狐塚 11 番地

電話：0562-33-2266